

筑後市の観光事業を どう考えているか

松竹 秀樹 議員



筑後市のプロモーションDVDが流れるJR羽犬塚駅

問 船小屋地区の観光事業の将来は。

市長 筑後広域公園、新幹線筑後船小屋駅を中心とした観光、お客様を呼べる施設が充実しつつあり、これから船小屋地域が一気に元気になることも夢ではないと思っています。元気いっぱい

問 船小屋を先頭に、筑後市全域が元気になってくれることを期待している。

市長 筑後ふるさとブランド開発事業の成果は、

商工観光課長 献上料理の復元とか、薩摩街道のマップづくり、薩摩街道の道し

るべを市内8ヶ所に設置しウォーキングの実施。また、市内のウォーキングコースを3コース設定しそのマップを作成。

あまおう酢の商品化、観光ボランティアの育成、それから筑後市のプロモーションDVDを作成し羽犬塚駅で流している。

問 近隣市町村との連携が必要では。

市長 5市2町の観光担当者等で筑後地域広域観光推進協議会を発足させ、その協議会の中で、筑後船小屋駅の2階につくる情報発信施設の整備の問題あるいは来年3月の開業イベント等についての話し合いを進めている。

また、商工会議所が平成22年度事業として、ちっこ地域広域連携観光開発事業に取り組んでおり、5市2町で観光開発を結びつけ、共有できる観光コンセプトで、一体化した矢部川流域圏の広域観光ルートを確立することを目指している。

筑後船小屋駅開業に向けて 二次交通への対応は 矢加部 茂晴 議員

問 新幹線が停車することに加え、駅への、あるいは駅からの利便性が求められている。筑後船小屋駅開業

に向けて、駅からの二次交通（乗り継ぎ）への対応は、

市長 二次交通の整備は、新幹線利用者を増やす大きな要素だと認識している。

新幹線を降りられた方が利用される二次交通については、まず在来線が考えられる。筑後船小屋駅の場合、

在来線船小屋駅を移設することで新幹線との乗り換えがスムーズにできるようになった。路線バスについては、路線バス事業は既存の路線が縮小されるという中で、バス事業者として新たな路線の新設や既存路線の延長などには非常に慎重だ。しかし、利用者の利便性を考えると、なんとか乗り入れてもらえるようバス事業者と現在協議中である。

新幹線開通に伴う 快速列車の増便は

問 5月18日、JR九州社長が定例会見の中で、来春の九州新幹線全線開業に合わせた鹿児島線の列車運行

について、基本的の特急列車はなくなるが、快速列車を増やすのも難しいとの認識を示している。この情報をどうとらえているのか。

建設経済部長

市としては、

特急はなくなるが快速は増えるだろうという認識をもっていた。どういったことで快速が増便できないと言われたか、早急に確認をさせていただきたい。

市長 羽犬塚駅を利用されている方は、筑後市民だけでなく、八女市や大木町の方もおられる。関係自治体の首長さんたちと協議をして、JRに対して要望するということになれば、先頭に立つて要望にまいるたい。



新幹線筑後船小屋駅（東側から望む）